

羅 針 盤			方 策		第1回 点検・評価			第2回 点検・評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目	自己評価	外部アンケート等	改 善 策	自己評価	外部アンケート等	改 善 策		
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	① 特色ある教育活動に積極的に取り組んでいる生徒が75%以上である。	A	A	ほぼ全員が本校の特色ある教育活動に積極的に取り組んでいる。コロナ禍で各行事に制限もあるが、感染症対策を徹底するとともに工夫を重ねて、今後も学校行事、総合的な探究の時間等の活性化を図りたい。	A	A	アンケートA+B評価は100%である。コロナ禍で各行事に制限もあるが、感染症対策を徹底するとともに工夫を重ね実施できた。来年度も生徒と相談しながら、新たな取り組みを取り入れたい。		
		② 自分の学校が好きだと感じている生徒が80%以上である。			自分の学校が好きだと回答した生徒が93%である。自己有用感を高めるためのブレインストーミングと縦割りグループによる学校行事が功を奏しているようである。今後も感染症対策に注意を払いながら、学校行事を運営したい。			自分の学校が好きだと回答した生徒が97%である。様々な教育活動を通して、自己有用感を感じているようである。来年度も感染症対策に注意を払いながら、生徒と共に学校行事を運営したい。		
		③ 三修制を利用して、95%以上の生徒が3年間で卒業している。			三修制への理解はほぼ全員が深めているが、今年度は3名が四修制による履修をしている。今後も、保護者と連携を図りながら、現3年生とともに卒業できるように指導したい。			三修制への理解はほぼ全員が深めているが、今年度の3、4年生は全員卒業できるので、来年度は4学年がなくなる。今後も、保護者と連携を図り、全員が3年間で卒業できるように努めたい。		
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	④ 「授業がわかりやすく、授業によって学力が身についている」と思う生徒が70%以上である。	A	A	授業がわかりやすい、学力が身につけているという質問への評価が高い生徒は80%を超えている。授業外の個別指導や夏補習等で個別最適化学習を進めることもできた。今後も教材の工夫、ICTの活用、個別指導など、更に工夫を重ねていきたい。	A	A	授業がわかりやすい、学力が身につけているという質問への評価が高い生徒は80%を超えている。授業外の個別指導や長期休業中補習等で個別最適化学習を進めることもできた。来年度はさらなるICTの活用、個別指導などを進め、更に工夫を重ねたい。		
		⑤ 成績不振者は全生徒の5%以下である。			1学期末成績不振者は2名(全体の6%)であった。いずれも欠席が多いことが原因である。保護者面談を行い、家庭での協力をお願いした。今後も連絡を密に取りたい。			2学期末成績不振者は4名(全体の12%)であった。いずれも欠席が多いことが原因である。保護者面談を行い、家庭での協力をお願いした。学年末では1名も出ないように指導したい。		
		⑥ 生徒に関する情報交換を週1回以上実施している。			ICT活用による打ち合わせや職員会議を行い、迅速で正確な情報交換を実施している。職員間の率直な意見交換をさらに進め、生徒の現状把握に努めたい。			日頃から、生徒情報の共有は頻繁に行うことができた。ICT活用による打ち合わせや職員会議も職員全員が無理なくできている。来年度はさらに意見交換を進めたい。		
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑦ 生徒会活動が充実していると評価する生徒が75%以上である。	A	A	生徒会活動に積極的に取り組んでいると回答した生徒は89%であり、昨年度の同時期より17%上昇した。昨年同時期は学校行事が中止となったことが要因と考えられる。今後も感染症対策を徹底し、生徒主体の学校行事を運営する。	A	A	生徒会活動に積極的に取り組んでいると回答した生徒は91%であり、今年度第1回より2ポイント上昇した。今後も感染症対策を徹底し、生徒主体の学校行事を運営し、生徒の達成感を感じさせたい。		
		⑧ いじめの発生防止に努め、いじめの解消率が100%である。			1学期は1件のいじめ事案が確認された。組織的な対応をした結果、本人、保護者、関係した生徒たちには、状況の改善が見られる。今後も継続して適切な指導を行い、完全な解消に迎えるように対応したい。			1学期に発生したいじめ事案は、組織的な対応をした結果、完全に解消することができた。来年度は案件0を目指し、普段からの生徒指導を徹底したい。		
		⑨ 欠席、遅刻者数は、定時制課程としては極めて低い状態。全生徒数の5%以下である。			1学期は欠席率7%であった。昨年度同時期比は3ポイント上昇した。欠席20日を超える生徒の理由は明確であるので、家庭やスクールカウンセラーとの連携を密にして、改善を図りたい。			2学期は欠席率3.4%となり、1学期と比較し、改善が見られる。今後も家庭やスクールカウンセラーとの連携を密にして、改善を図りたい。また、外部機関との連携も進めており、組織的な対応をしている。		
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑩ 進路通信等を年6回以上発行する。	A	A	進路通信はすでに6回発行し、様々な角度からの進路情報を提供することができた。また、前橋での進路イベントに生徒が参加した。2学期は社会人講師を活用した進路講話を計画している。	A	A	進路通信を毎月発行し、様々な角度からの進路情報を提供することができた。また、前橋での進路イベントや卒業学年からの進路体験報告会、キャリア教育講演会等を実施した。来年度はさらに、有益な情報提供ができるようにアンテナを高くしたい。		
		⑪ 家庭での話し合いを促し、生徒の将来の志望について理解している保護者が65%以上である。			保護者に理解されていると回答した生徒は89%であり、生徒の希望を理解していると回答した保護者は93%であった。昨年度の同時期よりも生徒17%、保護者9%上昇した。相互の理解度が更に上がるように今後も面談や情報提供を継続し、家庭での話し合いを促したい。			第2回調査では保護者に理解されていると回答した生徒は82%となり、第1回より数値が低下したが保護者は96%となっている。共に数値は高いが一部、進路方向に対する意見が合わない家庭もあるので、面談等を繰り返す必要がある。		
		⑫ 好ましい職業観を育成するよう、在学中に就業体験をした生徒が80%以上である。			アルバイトを含めた在学中の就業経験者は76%であった。入学間もない1年生は昨年度と同様、半数以上が就業未経験である。今後は生徒・保護者の意志を尊重しながら、就業体験を促すよう指導していきたい。			アルバイトを含めた在学中の就業経験者は数値的な変化が見られず、1年生を中心に就業未経験がいる。体調面で不安がある生徒もいるので、就業体験を促すのは生徒・保護者の意志を尊重しながら行いたい。		
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑬ 学校便り等(5:30新聞及び5:30新聞ミニを含む)を月2回以上発行する。	A	A	5:30新聞ミニや保健だより、進路通信等で学校からの情報発信を積極的におこなっている。保護者の満足度は89%であった。昨年度より14%向上した。今後も内容を充実させて、発行を続けたい。	A	A	5:30新聞ミニや保健だより、進路通信等で学校からの情報発信を積極的におこなっている。保護者の満足度は96%であったが、生徒は配布物を渡していないような数値が見られる。今後もWEB活用による情報発信を徹底したい。		
		⑭ ホームページの更新を毎月実施する。			毎月の5:30新聞ミニのHP掲載や毎週更新を原則としている定時制のブログ「笑顔の5:30」により、授業や行事、日常の学校生活の様子をわかりやすく発信している。今後も内容を充実させて、タイムリーな情報発信をしたい。			毎月の5:30新聞ミニのHP掲載や毎週更新を原則としている定時制のブログ「笑顔の5:30」により、授業や行事、日常の学校生活の様子をわかりやすく発信している。今後も内容を充実させて、タイムリーな情報発信をしたい。		
		⑮ 保護者面談の他、公開授業を年2回以上行う。			6月に保護者面談及び三者面談、保護者限定の公開授業を実施した。のべ9名の保護者が授業見学をした。今後の公開授業は新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえて判断したい。また、学校説明会だけでなく、随時中学生等の見学を受け入れたい。			6月に保護者面談及び三者面談、保護者限定の公開授業を実施した。また、11月には中学校にも働きかけた公開授業を行い、20名以上の来校者を迎えた。今後は在校生と共に、定時制教育の魅力について情報発信を行いたい。		
VI 教育のデジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑯ スタディサプリを1日1回以上利用している。	C	C	予定していた到達度テストが、予算の関係で実施できなかった。実際に使ったことがない生徒が32%もいるので、授業等での利用を促したい。	C	C	予定していた到達度テストが、予算の関係で実施できなかった。毎日利用している生徒も数名おり、授業等での活用を行うことで、利用を促したい。		
		⑰ ICTを活用した通知に、生徒・保護者の80%以上が満足している。			授業におけるICT活用への満足度は89%、保護者へのICT機器活用認知度は96%といずれも高い数値となっている。Google Classroomのスマホ連携やブログの存在が大きいと考えられるので、さらに内容を充実させて継続していきたい。			2学期当初の分散登校でのオンライン授業により、ICT活用への満足度は生徒・保護者とも非常に高い数値である。Google Classroomのスマホ連携やブログの存在が大きいと考えられるので、さらに内容を充実させて継続していきたい。		